

魚類等の遡上・降下が可能な方策を検討(天ヶ瀬ダム)

●具体的な整備内容

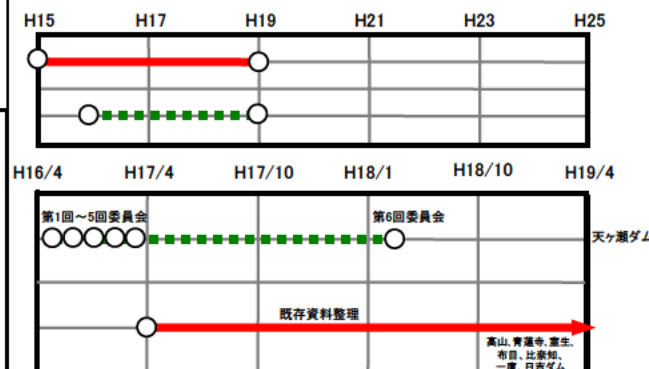
- ・既設ダムにおいて、魚類等の遡上・降下が可能なる方策を検討する。
天ヶ瀬ダム

●事業の数量・諸元等

●事業費

●スケジュール

— 検討 — 委員会 — 実施



●整備効果

ダムが魚介類の往来を困難にしている為、魚類などの遡上・降下が容易にできる方策を実施することにより、河川の連続性を修復するとともに、上下流域で河川本来の多様な機能が修復される。また、事例としては我が国において堤高70m級のダムに魚道が設置された事例はない。

●提案理由(代替案含む)

ダムなどの横断工作物は魚類等の移動を妨げる障害物となっている。そのため魚類等の遡上や降下が容易にできる方策を検討することにより、移動の障害を軽減させ魚類のライフサイクルを本来の自然な形に回復させることにより生態系の保全を図る。

魚類等の遡上・降下が可能な方策を検討(既設ダム)

●委員会等からの意見

ダムにおける魚類の遡上・降下が可能な魚道の設置については、慎重な検討が必要である。既設の堤高の高いダム(ハイダム)における魚類等の遡上・降下の回復については、莫大な費用を要する割には、効果について疑問があり、まず有効な代替案の検討を優先するべきである。流域全体を視野に入れ、ダムが引き起こす不連続による影響と魚道設置の費用と効果等も勘案し、場合によっては魚道設置を断念することも視野に入れたうえで検討されたい。また、青野ダム(兵庫県武庫川水系)のような先行事例の効果を十分検証するなど、判断のための情報の収集・蓄積と検討も進めて頂きたい。

●進捗状況

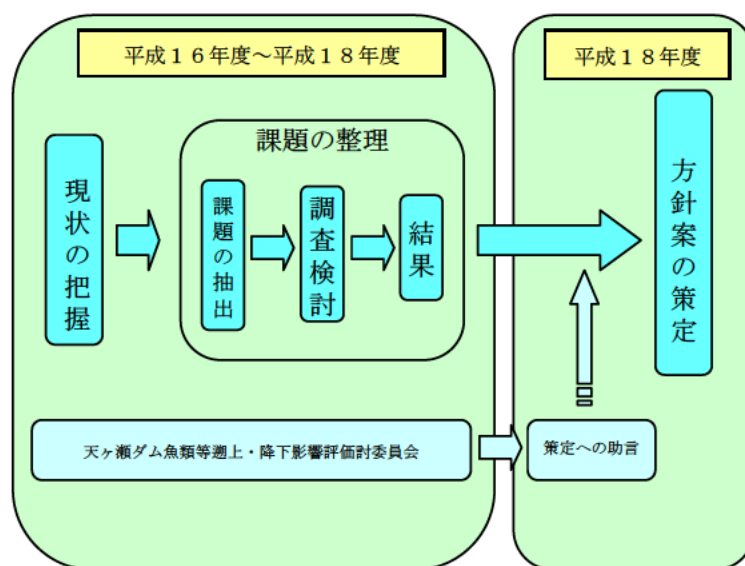
(天ヶ瀬ダム)

以下の項目について実施した。

- ・魚類等の遡上が琵琶湖へ及ぼす影響検討
- ・魚類等のモニタリング調査
- ・構造面での課題の抽出

●進捗状況

状況写真(ない場合はイメージ図あるいは図面)



●今後の見通し

- ・構造面(魚道)の課題整理
- ・遡上する魚類の魚種及び量の把握